

中国語圏セメスター留学便り（引率教員版）

九月

中国語圏セメスター留学は、平成 19 年度より行われている中国文学科のセメスター留学が発展したもので、今年度より全学に開放されました。今年度の参加学生は 26 名、うち男子は 12 名、女子は 14 名です。学科学部別では、中国文学科 24 名、外国語文化学科 1 名、法学部 1 名となっています。中国文学科の学生が大半ですが、他学科他学部の参加者もすっかり溶け込んでいます。

中国天津市にある南開大学で、九月始めから十二月末までの約四ヶ月間を過ごすのですが、この留学の概要については下記をご参照下さい。

<http://www.kokugakuin.ac.jp/intl/kokusai0500003.html>

また、本学 HP の「取材日誌」にも写真付きの記事が掲載されていますので、そちらも併せてご覧下さい。

<http://www.kokugakuin.ac.jp/guide/diary110905.html>

<http://www.kokugakuin.ac.jp/guide/diary110909.html>

<http://www.kokugakuin.ac.jp/guide/diary110915.html>

<http://www.kokugakuin.ac.jp/guide/diary110920.html>

<http://www.kokugakuin.ac.jp/guide/diary110928.html>

では、九月の出来事や学生たちの様子をお伝えします。学生版の便りが「主」で、こちらは「補」としてお読み下さい。

【到着から授業開始まで】

九月一日（木） JL023 便で、羽田空港から北京の首都国際空港へ。入国審査では、学生たちが「パスポートを投げて返された」とショックを受けていましたが、これが中国流です。

北京からバスに乗り、二時間半ほどで南開大学へ到着。この時期は現地の年度始めに当

たるので、学内には新入生歓迎の飾り付けがされています。学内には樹木が多く、蓮池や河もあり、カラフルな旗と相俟ってとてもきれいです。こちらの気持ちも弾んできますが、肝心の学生の印象を聞くのを忘れました。

到着日は部屋割りを済ませたら、あとはもう自由です。各自、中国での初の食事を何とか済ませたようでした。

二日（金） 午前中は、留学にあたってのオリエンテーションが行われ、その後、三組に分かれて学内を見学しました。中国の大学の敷地には、教室棟など教学関連の建物の他に、学生や教職員の宿舎、食堂、商店や銀行など生活に関わる施設もあります。全部を見て回ると時間がかかるので、当面必要な場所を確認しました。

四日（日） HSK（漢語水平考試）受験。留学中、九月と十二月に HSK を受験し、留学の成果を確かめることになっています。今年度は日程の都合で、到着早々の試験となりました。試験はすべて中国語で行われるので、みな戦々競々としていましたが、結果はいかに。（九月末日現在、成績は判明していません。）

なお、HSK については、こちらをご参照下さい。<http://www.hskj.jp/>

五日（月） いよいよこちらでの学期が始まります。午前中は、開学式典が行われました。南開大学からは、来賓の国際学术交流処の高海燕処長、漢語言文化学院の王立新院長を始めとした多くの関係者が、國學院大學からは赤井益久学長および引率者が出席しました。来賓の方々の挨拶に続き、男女一名ずつの学生代表が壇上で留学への意気込みを語りました。もちろん、中国語で。

中国人は、このような場でもスーツを着ることはないので、学生たちがみなスーツ姿で出席したことに感心していました。ネクタイがきちんと結べていない学生もいましたけれどね。学生はみな緊張した様子でしたが、南開大学の人には「態度がよい」と好評でした。

その後、試験が行われ、翌日からの小班（後述）のクラスが決まりました。

六日（火） 通常授業が始まりました。

【授業・教学面】

月曜日から金曜日の午前中は、8:30～10:10 が小班の授業、10:30～12:10 が大班の授業です。それぞれ 45 分ごとに 10 分の休憩時間が入ります。一冊の教科書を使い、会話や文法、講読などが行われます。「班」はクラスの意味で、小班は、参加学生を二つに分けた少人数授業です。大班は、参加学生全員が受講します。三人の教員が担当となりました。ベテラン、若手と経歴の差はありますが、みなさん大変いい方です。学生たちも慣れてきて、先生たちの口癖などをまねするようになりました。

昼休みは 110 分と長く、昼食をとってから自室に戻る余裕もあります。日本での昼休みよりだいぶ長いので、時間を持て余している学生もいるようです。

午後 14:00～15:40 は、選択の文化講座（二胡か京劇を選択 月曜日）、必修の武術の授業（火曜日）と、引率教員の授業（木曜日）があります。水曜日と金曜日の午後は基本的に自由ですが、水曜日は日本で言う所のオフィスアワーのように、先生が学生の質問に答えたり、話し相手になってくれたりします。熱心な学生は毎週のように先生のもとを訪れています。

月・木・金の週三回、7:00～7:45 は太極拳が行われます。担当者は武術と同じですが、カッコいい女の先生で、ファンになった学生もいます。太極拳のある日は早起きをするせいか、日中眠くなる学生もいるようです。

セメスター留学の教学面を担当する南開大学漢語言文化学院は、中国語教育の経験と研究の蓄積があり、日本の大学教員としても勉強になります。受講者の理解力などに配慮しながら授業方法を変えることもありますし、大班の授業ではパワーポイントを使用する等、教材の工夫も見られ、また、全回の授業計画も事前に作成されています。今は毎日、小テストと宿題が課されています。各学生との面談も行われ、やや出遅れている学生には個別に補習を行うなど、指導はきめ細やかです。

【中国語の学修状況】

個人差はあるものの、先生の話す中国語は聞き取れるようになってきたようです。それに比べて、教室の外で出会う中国人の言葉には訛りがあったり、早口だったりするので、なかなか聞き取れずにもどかしい思いをしているようです。そのもどかしさや焦りをバネにして、食欲に勉強して行ってほしいと思います。

二十三日（金）には、日本語学科の学生や、所属は一樣ではないものの日本語を学ばた

い学生たちとの交流会が行われました。その後、さっそく一緒に食事をしたり、次に会う約束をしたりしていました。中には、先方が日本語を話せない上に当方はたどたどしい中国語なので会話に不自由し、英語で会話していたグループもいました。なお、宿舎の部屋によっては同じ階に中国語の下手な外国人がおり、やはり英語で会話をするために英語が上手くなった、という話も聞きます。本学の学生は一般的に英語が苦手と言われていますが、この留学で中国語だけでなく英語への関心も高まったら予想外の成果ということになります。とは言っても、まずは中国語です。

交流会以外の場で、中国人の友人を作っている学生もいます。中国では積極性が何よりも大事です。物怖じせず、間違いを恐れず、どんどん中国語を使って中国人と交流を深めて欲しいものです。

【生活面・その他】

九月上旬は暑かったのですが、二週目あたりから朝晩寒くなり、風邪をひく学生も出てきました。その後はまたやや暑い日が続くなど、天候不順です。月末にはまた寒くなってきました。冬服をこちらで買う予定の学生もいますので、早く準備しなければなりません。

食生活については、口に合わないという声は聞きませんが、「日本食が恋しい」「お母さんの作った〇〇が食べたい」と言った声がたまに聞こえます。辛い料理が多いせいか、お腹をこわす学生もいます。また、乳製品などは店頭で常温で置かれている場合があるので、購入時には気をつけなければなりません。

宿舎は二人で一部屋です。くじ引きで決めたために全然話したことのない学生とあたるなど、当事者には不安な面もあったようです。いざ一緒に暮らしてみると、「よかった」「楽しい」という声が聞こえてきたので安心しました。一方では、かすかな不協和音が聞こえてきたりもします。セメスター留学は、他人との接し方を学ぶよい機会でもあります。

2011年9月30日 引率者・佐川 記